

相談支援班からのおたよりです



令和5年 12月6日発行

岩戸支援学校 支援連携グループ相談支援班

今年も残すところ、ひと月あまりとなりました。コロナ禍もピークを過ぎ、今年はイベントが増えました。夏は大変な猛暑となり、災害が多発しました。世界に目を向けると、戦争により多くの人たちが命を落としたり、家を無くしたりしています。そんな一年でしたが、何か良いことはなかったかな？と振り返ってみることも必要ではないかと思います。それが小さな出来事であっても、来年は大きく花開くことを願って！

サポートブックについて



先日「障害基礎年金」をテーマに、PTA出前トークが開催されました。そこでは書類の作成についてのお話もありました。前号の相談支援班からのおたよりでも、サービスを利用する際には計画書の作成をする必要があることをお伝えしましたが、高等部卒業後、様々なタイミングで同じような書類を作成する必要性が出てきます。そこで頼りになるのが「サポートブック」です。

一般に「サポートブック」は、親なき後を考えて用意しておくべきものとして、本人の成育歴や相談や判定などの基礎的な情報や、本人・家族の願いなどを記載していくものです。年金申請のための医療機関受診時、グループホームや介護施設に移行する時など、担当者に短時間で成育歴などの情報を伝えなければなりません。本人の好きなことや苦手なこと、こうすれば落ち着く、など様々な情報を伝えることで、スムーズな診断や移行ができます。

横須賀市では「サポートブック」、葉山町では「こん葉す」を配付しています。生まれた時の様子や小学生、中学生時代のエピソード、受診歴、どんなことに喜び、何が出来て何が不得手なのかなど、様々な情報を書き込めるようになっていきます。無料でダウンロードできる「親心の記録」（一般社団法人：日本相続知財センターグループ）などもあり、項目別になっているので記載しやすくなっています。これを支援者に託し、支援の方向性を考えていただくことがサポートブックの目的です。一度作成しておくこと、変更や追加することを朱書きしたり用紙を追加したりすれば、書き直しの必要はありません。今なら生まれてから15～18年間の歩みを書くことになるので、まだ記憶も新しいと思います。ぜひ、お子さんの生涯の助けになるツールとして作成されることをお勧めします。作成に際しては、相談支援班や担任、相談支援事業所や障害福祉課などがお手伝いすることも可能です。作成してみたい方は、各市町の障害福祉担当もしくは本校の相談支援班にご連絡ください。（市によっては配付のないところもありますので、ご確認ください）

いかのおすし

子どもを犯罪から守る防犯標語です。暗くなるのが早いこの季節、小さな子どもに限ったことではなく、犯罪に巻き込まれないよう注意が必要です。クリスマスなどのイベントや初もうでなど、冬休み中には多くの人が集まり賑わいます。そこには犯罪というリスクもあることを知っておくことが大切です。

「いか」知らない人について行かない

「の」知らない人の車に乗らない

「お」大きな声を出す

「す」すぐ逃げる

「し」近くのおとなに知らせる



ヤミ金融に注意！

※神奈川県産業労働局中小企業部金融課発行のリーフレットより

最近、SNSや掲示板サイトなどの勧誘による「ヤミ金融被害」が増えています。「#お金貸します」「#個人間融資」の書き込みは、個人のふりをした「ヤミ金融」の恐れがあるので絶対に関わってはいけません。

お金を貸す「貸金業」は登録することが法律で決められています。つまり「ヤミ金融」は違法な貸金業ということです。そこでお金を借りてしまうと、数倍の返済を要求されたり個人情報が悪用されたりすることがあり、さらなる犯罪被害やトラブルに巻き込まれる危険性があるのです。

また、令和4年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、18歳になると保護者の同意がなくても自分の意思で様々な契約ができるようになりました。一方で、保護者の同意を得ずにした契約を取り消せる「未成年者取消権」がなくなります。そのため、新成年を狙った「ヤミ金融被害」や「消費者トラブル」に巻き込まれるケースが増えてきているのです。

「センター的機能」に関わる中間報告

夏休みから12月にかけて、相談支援班が関わった外部機関と連携したケースカンファレンスは延べ9ケースでした。保護者の来校相談は2件（電話での情報提供は含まず）、関係する市町の協議会の出席は9件、中学校への巡回相談は7校（市の教育委員会と協働するチーム巡回4校含む）でした。10月にはセンター的機能推進協議会ブロック会を鎌倉支援学校を会場に、本校が代表校として開催しました。また、前述のPTA出前トーク（障害基礎年金について）では近隣の高等学校にも開催のお知らせを出し、参加を呼びかけました。

これまで、おたよりを通していろいろな情報をお伝えしてきました。これからも制度のことや注意すべきことなどをお伝えできたらと思います。